

JAL、LOSAを導入、実施規模は世界最大！

～ 日常運航の健康診断、LOSAを導入し安全運航の品質向上を目指します!!～

2007年3月8日

第06145号

JALは、日常運航をヒューマン・ファクターの観点から客観的に、かつ科学的に分析する手法である「LOSA (Line Operations Safety Audit)」を導入することといたしました。安全に関わるヒューマン・ファクターへの取り組みを強化し、更なる運航品質の向上を目指してまいります。

LOSAは、1990年代にFAAから支援を受けて、米国テキサス大学で開発されたプログラムで、航空会社の日常運航をモニター・分析・評価することにより、各社に潜在する「ヒューマンエラーを誘引する要因・背景」や、「ヒューマンエラー対応方法の傾向性」を発見する「日常運航の健康診断」です。FAA(米国連邦航空局)とICAO(国際民間航空機関)は、LOSAを推奨し、現在世界各国の航空会社で実施され、その効果をあげているものです。

JALでは、2007年4月から約3ヶ月間、LOSAの運営会社であるTLC社*とLOSAオブザーバーとしての訓練を受けたJALの運航乗務員が、LOSAでは世界最多となる国内・国際線合計435便に搭乗し、「日常運航の一連の流れ」や「フライト操作」等、「ありのままの姿」をヒューマン・ファクターの観点から客観的にオブザーブします。これらの結果は、TLC社により科学的、統計的に分析され、JALはこの分析結果をもとに必要な改善策を講じてまいります。更に改善策の日常運航における定着度を継続的にモニターしていくことで、その効果を検証してまいります。

TLC社*: The LOSA Collaborative: 世界で唯一のLOSA運用会社

ヒューマンエラー低減に向けた取り組みに終わりはありません。JALは、世界最大規模の豊富な収集データにより分析された、精度の高いLOSA分析結果を活用し、更なる運航品質の向上を目指して参ります。

以上